

新善光寺 寺報 北 縁

2025年10月 Vol. 58

ほくえん



44年ぶりの大法要
「五重相伝会」成満!!

じゅう や

十夜法要のご案内

十夜法要とは、浄土宗の最も大切な經典の一つ「無量寿經」の中に、

「此に於て善を修すること十日十夜すれば、
他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」

現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。

とあることに基づく法要です。仏教を体感できる法要ですので、是非ともご参拝ください。

11月3日(月) 文化の日

午後1時 法話

→ 10 分間の小休憩 →

午後2時 法要

(塔婆申込には同封の振替用紙をお使いください)

法要に参加してみよう!!



❶ まずお寺に入ります。駐車場は手狭なため車が停められないかもしれません。その際は周りの有料駐車場をお使いください。公共交通機関では地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅6番出口がすぐです。



❷ 受付をすませましょう。



❸ 塔婆を受け取り、水向け供養をします。お坊さんが付いていますので安心ください。



❹ 法話がはじまります。本堂に行きましょう。

❺ 次は、法要です。少し休憩をして始まります。



法要開始です。
雅楽の演奏で始まります。

一日限りで^{ほうもつ}宝物の
特別展示をします。



※本堂は暖房をつけますが、寒く感じるかもしれませんので、当日は暖かい服装でお越しください。
見どころの多い仏教に親しむことができる法要です。多くの皆様のお参りをお待ちしております。

法話を聞いてみよう

堀 芳照 師
(京都 長圓寺前住職)

今回は、堀芳照師にご法話を頂戴します。

13年前にも来ていただき、わかりやすい、心に染み入るご法話をいただきました。今回もお聞きになる皆様と心を通わせるお話をしていただけるはずです。しっかりとした法話を聞く機会もなかなかないかと思いますので、是非ともお越しください。

堀 芳照 師

1952年生まれ・京都教区洛南組 長圓寺前住職

浄土宗特定布教師・浄土宗常任布教師

総本山知恩院・大本山増上寺・金戒光明寺・百萬遍知恩寺・
清浄華院布教師



13年前の様子



一年の法要で、一番僧侶が多い法要です



太鼓でダイナミックに阿弥陀経を唱えます



法話をじっくりと聞くことができるのも、この法要だけです

五重相伝について⑦

五重相伝会 無事に終了!!



44年ぶりに開催の浄土宗最高の法要である五重相伝会ですが、84名のご参加をいただき無事に成満いたしました。

開催を決めたとき最初は一体どれくらいの方が参加してくださるのだろうかと不安でしたが、月参りの際にも参加をお勧めしたり、色々と広報活動が続けていくうちに多くの方々にお集まりいただけました。改めて感謝を申し上げます。

今回は大阪流の五重ということで、お経やお説法を担当する方も大阪から、またお手伝いいただいた方も大阪そして新善光寺と縁が深い札幌市内寺院の方々に来ていただきました。

我々自身も慣れないところでまた受けられた方も皆さん初めてということで、初日は探り探りのところもあったかと思いますが、2日目以降からは日に日にお念仏をお唱えするお声もより大きくなっていきました、本当にありがたいことでありました。

最終日には浄土宗の念仏の奥義を相伝され、皆さん晴々としたお顔でいらっしゃったのが印象的でした。

参加された方にお話をお聞きしたところ、「本当にありがたく、あっという間の時間でした」「私が生きているうちにまたして欲しい」「今まで疑問に思っていたことが、糸が解けるように理解できました」とのお声もいただきました。受けられた方の信仰の分岐点になったかと思うと同時に新善光寺においてもお念仏の布教活動の転換点になったかと思います。

秘伝ですので詳しくはお伝えできないのが残念ではありますが、どんな感じだったのか知りたい方はお気軽にお声がけください。





受けられた方にインタビュー！



なか さ あゆみ
中佐 歩 様

—五重相伝を受けられて改めて思うところがありますか？

「お念仏が一番ということはわかっていましたが、伝統や流れというか奥深さを知ることができて良かったです」

—お体はお疲れになりませんでしたか？

「全然、私的には疲れなかったです。受けられた方の中では若い方だと思うので大丈夫でした」

—受けられたきっかけはどのようなものでしたか？

「母の葬儀で新善光寺さんと縁が結ばれ、四十九日が終わり、お彼岸やお盆の法要に参加していくうちにお寺って心が落ち着くなあと思いました。元々、私は羽幌町の法泉寺さんで経営されている幼稚園に通ってまして、その時、今のご住職様がお兄ちゃん先生としておられました。そこからは疎遠になっておりましたが、母を亡くして浄土宗ってどうなんだろうって思い、昔と違い今はインターネットで調べることもできますので、そのうちに現在にも通ずる法然上人の教えに感動して調べれば調べるほどもっと知りたいと思っていました。ご案内をいただき、どうしようか悩んでいましたが、考えていくうちにもっと教えを知りたいし、お戒名もいただけるということで59歳の時でしたので、還暦前にお戒名をいただき新しい誕生日と思い受けることにしました」

—印象的に残っている場面はありますか？

「法要の中で受けられた80数名の方と僧侶の方、また塔婆回向を申し込まれた方、合わせて100名くらいの方でお念仏を唱え、本堂に響き渡ったところが、心が凄く震えました」

新納骨堂増設しました！

平成 29 年に新納骨堂が完成しましたが、おかげさまで二段型（5 霊位収蔵可能）が全区画埋まり、また、一段型（12 霊位収蔵可能）も残りわずかとなりました。

昨今、遠方や後継者の観点から墓じまいをされる方が増え、納骨堂や合葬墓に移される方が多くなってきました。

そのことから新納骨堂と同じフロアにあった「真珠の間」を改装し納骨壇を新たに設置しました。一段型と二段型の 2 タイプとなり、色は水色をベースにグラデーションをかけて明るく、そして少し華やかな感じにしてみました。

新納骨堂はエレベーターが完備しており、また暖房もついていますので冬期間でも快適にお参りすることができます。

現在、絶賛募集中ですので、もしご興味のある方がおられれば是非お早めの検討をお勧めします。



（収蔵）

一段型（正面）	200 万円	12 霊位
一段型（左右）	180 万円	12 霊位
二段型（上段）	70 万円	4 霊位
二段型（下段）	60 万円	4 霊位



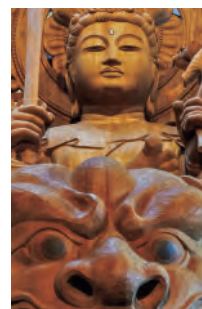
〈日帰り寺院参拝ツアーのお知らせ〉

札幌大仏を参拝！秋のバスツアー

日時 11月7日(金) 9時～16時 参加費 6,000円

毎年恒例の日帰りバスツアーですが、今年は真言宗の金毘羅密寺様と小樽にある真宗大谷派の不動院様を参拝する予定です。金毘羅密寺様の本堂、そして札幌大仏が祀られている文殊殿は北海道の寺院建築の大家の本間博氏による斬新な設計です。

また、不動院様には空間的な問題から2、3人しか入ることができないという珍しい場所があるとのこと。さらに、お昼ご飯は小樽の福鮎さんでお寿司をいただくという盛りだくさんの内容となっております。



午前9時	新善光寺 出発
午前9時半	金毘羅密寺様を参拝
昼頃	小樽でお寿司
13時半頃	不動院様を参拝
お土産タイムを挟み	
16時頃	新善光寺 到着



〈行事案内〉

大晦日は除夜の鐘を鳴らしましょう！

12月31日(水) 23時45分頃から

年越しをお寺ですることは2年参り（例：2025年12月31日と2026年1月1日の2年ということ）とも呼ばれ功德があるといわれています。どなたでも撞くこと



ができますので是非ともご参加ください。また、近隣の寺院と協力し大晦日限定の寺院巡りスタンプラリーも開催予定で、参加の方には景品を用意しております。

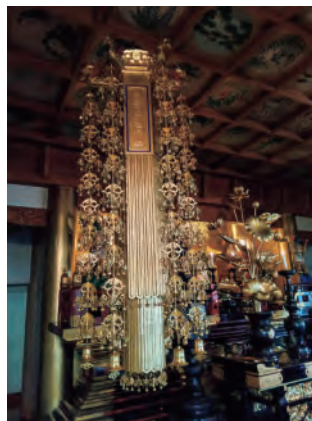
道を求める^{そな}具え～道具～

書道にしても、茶道にしても、お稽古事で道具を大切にしない人に上達はありません。ある老舗の茶道具屋さんは、「道具は嫁入りさせるが如く扱え」という心得でお商売をされています。“売れば、そんでしまい”ではなく、売ったあとの行く末を想うような精神ではないでしょうか。先日、道具の意義を再認識する出来事がありました。

7月30日の朝、いつものように本堂でお朝事を勤めておりました。すると、^{どう}幡^{ばん}（図参照）という仏具が、ゆっくりと揺れはじめました。地震かなと思いました。身体では感じられない揺れでした。お勤めを終え、テレビを見ますと、カムチャッカ半島で地震があったとのこと。各地の海沿いでは、津波注意報・警報が発表されていました。

^{どうばん}幡^{ばん}という仏具は、形は多少違いますが、今から700年ほど前に描かれた『法然上人行状絵図（四十八巻伝）』にも登場します。そこに描かれているものは、^{ばん}幡（はたと読む）といわれ、幡を複数つなげたものを^{どうばん}幡と呼びます。『四十八巻伝』の幡は、おそらくは布製のもので、風が吹くとひるがえり、下部についている鈴が鳴る構造になっています。当山の本堂の^{どうばん}幡は、木製で簡単には揺れ動きませんが、この度のカムチャッカ半島の地震では、静かにその道具の意義を示してくれました。幡が動くということは、如来さまや菩薩さまがその道場にお越しくださったことを示すことだとされています。体には感じられない震度でも、大地が揺れていることを教えてくれる^{どうばん}幡という仏具に、単なる飾りではない、道具としての役割を感じた出来事でした。

道具とは、本来仏道を歩む^{そな}具えという意味があります。つまり、真実の道を求める手助けとして、またその精神を養い育てるものが道具といえるのです。我が国においては、仏教伝来以来、1400年の長きにわたり、仏具が連綿と使われてき



ました。先の大戦では、金属製の仏具である釣り鐘などが供出されるという悲惨な事件がありましたが、仏具という道具をこれからも大切にし、仏道を歩んでいこうと存じます。

〈文：立花 俊輔〉

参詣記～伊予編～

夏めく頃、私、立花は四国は松山に行ってきました。松山といえば、道後温泉です。その歴史は古く、遠く神代の昔には少彦名命すくなひこなのみことが大国主命おおくにぬしのみことの手にのり傷を癒したと、伝わります。また、四国は八十八箇所の霊場巡拝が盛んな土地です。今回は、松山市内の四十六番浄瑠璃寺さん、四十七番八坂寺さん、四十八番西林寺さんの三箇寺を打ちました。

四十六番の札所に着くと、白木のお位牌を持ったご婦人がいました。息子さんとお嫁さんでしょうか、三人でのお参りです。おそらくは、そのご婦人のおつれあいのご供養で巡っているのでしょうか。“ああ～四国っていいな～”と思いました。境内に足をすすめると、なんの変哲もない石に「忘れ石」という立て札がされています。その裏側には「掛けて浮世の憂さを忘れませ」とありました。なんと、乙な石ではありませんか。何人の疲れた遍路がここで息災を頂いたことでありましょう。



四十八番さんの山号は、清滝山せいらんざんといます。水のきれいなところだったのでしょう。石碑には、「白玉しらたまの水みづ清きよければ 吾心わがこころ 写うつしてたのめ 真しんの一言ひとこと」とあります。お念仏者にとっては、その一言とは南無阿弥陀仏です。どんなに自分の心が汚くとも、如来さまは称える者をお浄土につれていってくださいなのです。そんなことを感じた今回の旅でした。また、いつか四国に行きたいなあ～。

〈文：立花 俊輔〉

心理カウンセリングを通じて ①

衝撃的な出会いが導く縁

長尾 省行

15年程前に、小樽市内の浄土宗寺院にて開催された「第一回仏教カウンセリング」を機に人の心理について学んでみたいと思い、それから東京や京都で講座がある度に足を運ぶほど、没頭していきました。なぜそれ程までに興味を惹かれたのかと言いますと、それは一人の先生の実在でした。もちろんその方は、浄土宗の僧侶であり、当時は本山の執事と言う役職にもついておりましたが、惹かれたのは、その肩書ではなく、人としての存在感でした。

今までの私が持つ僧侶像と言う想像を見事なまでに木っ端微塵に壊してしまった程、出会った時の衝撃が大きかったのです。頭は剃髪されていましたが、容姿はルパン三世そのものだったのです。これまでに、浄土宗が主催する講習会、研修会にいくつも参加しましたが、そんな格好をする先生は一人もいませんでした。黒のワイシャツに黄色のネクタイ。こんな人が、こんなお坊さんがいるのかと。その先生の存在が私を心理学の世界へと導いてくれました。

本題に入る前置きが随分と長くなってしまいましたが、それ程までに私たちの思い込みや固定観念というものは、自分の思考や行動を制限してしまっているのです。今回は私たちの脳の仕組みについて簡単に触れてみたいと思います。

早速ですが「脳は現実と想像の区別が出来ない」のです。楽しい事を想像するとワクワクしませんか？ これからの季節、気候も暖かくなり虫たちも活発に活動してきます。虫が苦手な方も多い事でしょう。嫌いな虫を想像すると不快に感じたり、中には想像するだけで鳥肌が立つ方もいるでしょう。しかし、これは想像しただけに過ぎません。一度、体験した苦手な事は脳の中で、無意識に幾度となく再現され、誇張されて脳に記憶されていきます。それならば、想像の中で意識的に苦手なものの、イメージをかわいらしく変化させることも可能なのです。脳が「現実と想像の区別が出来ない」ならば、楽しい想像、面白いことを意識的に想像の中で誇張させて行くことで、脳は「今楽しいことが起こっている」と認識します。想像は自由に、自分の思ったように、描くことが出来ます。日々をさらに充実した一日を送るお手伝いが出来ればと思い綴らせて頂きました。次回は私たちの五感についてお話しできればと思います。

復活！ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話

7回目になる知恩院での輪番布教

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



6月10日、明日から輪番布教の為に、早朝便で札幌を出発した。伊丹空港より京都へ待望の総本山知恩院の前に立てた。威風堂々の国宝の三門を見上げた。現世の苦しみの開放を表わす三門の「三」のお力なのか一歩、一歩登れるはずのない足なのに、又、一歩と登り上がった。阿弥陀様のご本願他力が登らせて頂けたのでしょうか。

今回、7回目の輪番案内が届いたのは、股関節手術後のベッドの上だった。言葉では言い表せない程の痛みの最中だった。上体が起き上れるようになった或る朝、主人が引き出しに入れてくれたハガキを見つけた。未だメ切に間に合うと見るなり迷いはなく、ハガキと共に心は既に法話をおこなう御影堂に飛んでいた。与えられた5日間には午前中の晨朝（じんちょう）法要・日中法要の2席は毎朝。他には写経・別時会有り、計12席の話を書かなければならない。折れそうになると私の話を待ってくれる人々の顔を思い出し、法然様のお力を背に頑張れ、頑張れと激励された。少し軌道に乗ってきた3月、外出先のエスカレーターで転倒し、救急車で運ばれてしまった。一層、歩行が不自由になった。しかし自分でも不思議なくらい、全く迷いはなく、むしろ阿弥陀様の他力を感じた。

いよいよ本番。久しぶりに緊張を感じた。最初の御一行様は松本・長野の50人程のおてつぎ運動の方々だ。御住職様達の御指導の所為でしょうかお念仏の声が天まで響き渡った。3,000人が入ると云われている御影堂内に参拝されている、お一人お一人が合い交じり、響き渡る念仏は法然様に届いているに違いない。

開宗850年後もまた新たなスタートを切ってお守りせねば…と私は会衆さん達を見渡した。法要が終わって退出しようとする、若い御夫婦に声を掛けられた。

法話を聞くのは初めてで、初めてお念仏の大切さを知ったと言う彼等と3人でお十念を響かせた。輪番者の感動体験だ。京都の豊田さん・竹内さんいつも有り難う。

また、福岡からわざわざ足を運んで下さり福田さん有り難う。又、前布教師会会長様、晨朝の席で見つけて驚き、更にお日中にも見えて、光栄で体が震えました。励みになりお十念で感謝をお伝えしました。布教師室の整理を終えて出ようとする、係の方が、「先生！先生！法要後、何人もの人が素晴らしかったと興奮一杯の状況」を聞かせてくれた。84歳の私がマイク無しの大声だった姿に対しての事の様だった。

お陰様で足も軽やかに、転ばずに夜帰路に着きました。

お世話になった多くの皆さん、有り難う御座いました。合掌



清璋寺から

御祈願

清璋寺では、各種願意ご祈願を行っております。

【願冥加料】3,000 円 【授与品】祈願札とお守りを授与いたします。

檀家・宗派は問いません。どなたでも申し込いただけます。

お申込みは HP お申し込みフォームかお電話で問い合わせください。

※事情によりお越しになれない場合でも、本堂にてご祈願し、その後祈願札をご郵送いたします。

〔願意〕

- ・家内安全
- ・身体健全
- ・交通安全
- ・学業成就
- ・良縁成就
- ・安産祈願
- ・厄除け
- ・当病平癒
- ・商売繁盛
- 等



清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

清璋寺は毎週火曜日を寺院閉館日としております。お参りの際は、お寺にお問合せください。

しろいし幼稚園から

4月25日に、しろいし幼稚園の年長児がお参りに来ていただきました。

本堂でお話を聞いて、その後は普段は入れない内陣に入って仏像を近くで見て、お寺の中を巡って行きました。園児たちはお行儀よくお話を聞いて、しっかりと仏様に手を合わせて行きました。

しろいし幼稚園ではいのちを大切にする「ほとけさまの教え」を通じて“あかるく・ただしく・なかよく・やさしく”をモットーに多くの“ほとけさまの子ども”を育てています。



子どもたちの活動の様子は Instagram でご確認ください。



子どもたちの日常の様子を公開しています。
ぜひ、チェックしてみてください。フォローをお願いします！

学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

札幌市白石区平和通1丁目南6-16 TEL 011-861-4426

担当：園長 太田・副園長 宿谷（しゅくや）

慈啓会から

創立 100 周年を迎えて

社会福祉法人札幌慈啓会は、令和 7 年 10 月 5 日に創立 100 周年という大きな節目を迎えます。大正 15（1925）年の創立以来、私たちは地域の皆様と共に歩みを進め、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる地域づくりに尽力してまいりました。この 100 年という長い歴史を支えてくださった多くの皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。

記念すべき 100 周年にあたり、現在さまざまな記念事業を展開しております。大谷大学様との産学連携により、学生の皆様にロゴ制作を依頼し、100 周年記念シンボルマークと新たな法人ロゴの 2 種が完成しました。これらのロゴを記念グッズの作成や広報にも活かしております。

また、法人の歴史やこれからのビジョンを映像で紹介するムービーも制作いただきました。さらに、慈啓会がこれから目指す姿を示す「慈啓会法人ビジョン 2025」も策定。このビジョンは、職種や世代の異なる職員 12 名が委員となり、13 回の会合と 2 度のパブリックコメントを経て完成しました。ビジョンの理解と共有を深めるため、「ビジョンブック」も全職員に配布しております。

この他にも、記念学会や祝賀会の開催、記念サイトの開設、施設看板の刷新、PR マグネットの車両掲示、マイクロバスのラッピングなど、幅広い広報活動を展開中です。加えて、記念冊子の発行や物故者法要の実施も予定しております。



これらの事業を通じて、地域社会との絆をさらに深めるとともに、次の 100 年への新たな一步を踏み出してまいります。今後も札幌慈啓会は、すべての人々が安心して暮らせる社会の実現に向けて、福祉の現場から誠実に取り組んでまいります。変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎ 0120-83-8291

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

お電話受付時間／8:45～17:00（土日・祝は除く）
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

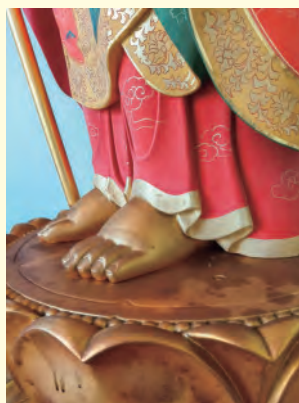
相談無料

当山のお仏像を紹介します⑮

じ ぞう ぼ さつりゅうぞう 地蔵菩薩立像

境内の北側、南6条の通りに面しているところに宝^{ほう}塔^{とう}（永代供養合葬墓）とよばれる建物があります。その中においてなのが今回紹介する地蔵菩薩さまです。このお地蔵さまは、宝^{ほう}珠^{じゆ}と錫^{しゃく}杖^{じょう}を持っています。足を拝すると、とてもふっくらとしています。これは、足^{そく}踏^ふ高^{こう}満^{まん}相^{そう}といい、如来さまの境地に近い証を示しています。

また、お地蔵さまの頭上に目をやると、天女^{てんが}の天蓋^{がい}が美しく印象的です。



札幌の浄土宗寺院紹介⑥

そうなんざん げんしょう じ 藻南山 玄松寺

住職名：田中 眞尚 寺号公称：昭和 28 年
玄松寺は藻岩山の麓、中央区と南区の境にある軍艦岬と呼ばれた場所の程近くにあります。明治 38 年、旧山鼻墓地（南 29 条西 11 丁目）、屯田兵や附近住民の為の共同墓地の法務所を平井信澄上人が建てました。昭和 28 年、新善光寺の太田隆賢上人が兼務し寺号公称。昭和 58 年、二世田中真道上人が住職になり本堂再建し現在に至ります。



玄松寺 札幌市中央区南 29 条西 10 丁目

玄松寺 札幌

検索

北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

今年も過ごしやすい、しかし短い北海道の秋がまいりました。今年の夏は真夏日が30日以上もある大変暑い夏でしたが、厳しい冬の前にこの過ごしやすい秋で心身をリフレッシュしたいものです。

さて、前号では五重相伝のご質問にお答えしました。6月に行われた五重相伝では大変多くの受者にご参加いただき、無事成満にいたりましたことを御礼申し上げます。五重相伝は終わってしまったけど聞きたかったことがあるなどについても引き続きご質問いただければと存じます。

Q1 お墓をまもる人もいなくなるので、墓じまいを考えています。どういった手順で行えばよいでしょうか。

A 「墓じまい」は最近よく聞く言葉のひとつです。お寺へのご相談も増えています。「墓じまい」とは、現在あるお墓を撤去・解体し、遺骨を他の場所に移す手続きのことを指します。少子高齢化や核家族化が進む中で、「後継者がいない」「遠方で管理が難しい」「子どもに負担をかけたくない」といった理由から、墓じまいを検討する人が増えています。また近年所有者の高齢化から、墓参する際に自家用車を利用しないと通えない霊園、墓地から、交通利便の高い都市部の納骨堂などへ改葬するケースも増えています。

お墓は遺骨を埋葬するだけではなく、亡き両親をはじめ先祖など故人への思いが込められており、理由があるとは言え、突然の決定はトラブルの原因にもなりえます。墓じまいを行う際には、まず親族間でよく話し合うことが重要です。そのうえで、墓じまいを決めたら埋葬されている遺骨を改葬する場所を検討しなければなりません。一般的には永代管理を行っている合葬設備や他の墓地霊園、納骨堂に改葬しますが、散骨などのケースもあります。その中でも寺院などで永代供養を行っている設備は、後継ぎがいなくてもが供養を続けてくれる点で人気があります。札幌圏では埋葬の際に遺骨は骨壺から出して埋葬することがほとんどなので、数十年経過をした遺骨はほとんど土に還っているケースもあります。遺骨は改葬を行うため、改葬許可証を市区町村から取得します。原則として改葬許可証がないと遺骨を他の墓地や納骨堂に移すことができません。

墓石の撤去には専門の石材店による工事が必要で、費用は数十万円程度が相場です。市町村が管理運営している霊園では工事完了に伴い書類や工事写真の提出を求められることから、書類作成の代行サービスも行ってくれる業者をお願いするのがよろしいと思います。

墓じまいは、単なる物理的な作業ではなく、故人への敬意と家族の思いが込められる大切な節目です。慎重に準備し、心を込めて進めることが大切です。

〈東京別院霊源寺より〉

合葬墓のお知らせ

およそ15年前に開設した納骨堂も好評を得ておりますが、このたび昨今の都心でのお墓事情を鑑みまして合葬墓（合祀墓）を新たに建立いたしました。

霊源寺は品川区に位置しており、最寄り山手線ですと「五反田」、地下鉄ですと「不動前」になり、交通の便も非常に良いところであります。

また、東京近郊でお住まいの新善光寺のお檀家様のご供養もおこなっており、春と秋の彼岸法要には欠かさず新善光寺の住職もしくは副住職が伺っております。

どうぞご興味のある方やご供養を希望される方はお気軽にお問い合わせください。

東京都品川区荏原 1-1-2 TEL 03-3494-1083

東京別院霊源寺 横断



編集後記

今号もなんとか無事に発行までこぎつけました。

もっと早く皆様のもとへ届けようと思っておりましたが、思いだけが先走り現実の原稿を書いて校正する作業が手間取ってしまいました。理想と現実のギャップに何事も苦しんでいる毎日です。

次回発行の「ほくえん」をもって編集体制や誌面も変えていこうと思っております。

皆様のご感想やご意見がこの寺報制作の励みとなっておりますので、是非とも挟んでいるアンケートハガキをご返信いただければ幸いです。（真海）

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ



YouTube



Instagram

新善光寺寺報
Hokuen 58
北 縁

発行／2025年10月発行
発行責任者／新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp